

## 木古内の財産・咸臨丸 朗読劇で全国へ



最後の朗読劇練習で迫真の演技を見せる出演者

【木古内】「咸臨丸全国まちづくりサミット」に合わせて25日に上演する町民朗読劇の最後の練習が19日、町中央公民館で行われた。朗読劇は咸臨丸の歴史をたどる内容で、全国のゆかりの人々を招いた初のサミットを盛り上げようと、町民の熱気が高まっている。

サミットは、軍艦咸臨丸が町内サラキ岬で座礁してから140年の節目を記念し、町民有志でつくる実行委が主催。24日午後3時から同公民館で、香川県塩飽諸島や宮城県白石市など咸臨丸ゆかりの各地の代表が歴史を生かしたまちづくりについて討論する。

町民朗読劇は関連行事として翌25日午後0時半か

## サミット前に最後の練習

ら、同公民館で上演する。19日の最後の練習は、はかま姿の出演者たちが朗読や寸劇を披露。木古内中吹奏楽部の演奏も加わり、本番さながらの緊張感に包まれた。実行委の久保義則委員長は「木古内の財産・咸臨丸を全国に広めようとみんな頑張ってきた。多くの人に見てほしい」と話していた。

サミットと町民朗読劇などの関連行事はいずれも入場無料。会場では咸臨丸に関する出版物や東日本大震災で被災した白石市の特産品の販売も行われる。また「咸臨丸と福沢諭吉」をテーマにした資料展も28日まで、同公民館で開かれている。

(大城道雄)



# 咸臨丸の歴史 朗読劇で伝える

本番に向け最終調整を行った朗読劇の出演者とスタッフ

## いよいよ本番！ 最後の練習に熱

【木古内】木古内町で24、25の両日に開かれるイベント「咸臨(かんりん)丸終焉140周年記念全国まちづくりサミット」(実行委主催)の中で上演する朗読劇「永久(とこしえ)に、咸臨丸」の最後の練習が19日、町中央公民館で行われた。キャストとスタッフ総勢80人が集合。本番に向け熱のこもった稽古を繰り広げた。町民が「一から作り上げた舞台で、実行委では「咸臨丸を町の財産として伝えていくきっかけにしたい」と意気込んでいる。(松宮一郎)

### 24、25日に終焉140周年記念サミット

イベントは、幕末の軍艦「咸臨丸」が同町サラキ岬沖で沈没してから今年で140周年を迎えることから、地域活性化を目指す住民団体「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」などが企画。朗読劇は、咸臨丸と日本の歴史を紹介する内容で、脚本は札幌在住のノンフィクション作家、合田二道さんが手掛け、キャストを公募し7月から練習を行ってきた。

この日は、本番前最後の練習ということもあり、キャスト、スタッフとも各自の役割を最終確認した。練習開始当初はセリフを読むだけだった

出演者らも、回を重ねる度に感情を込めたセリフ回しができると成長。この日も真剣な表情で台本を読み、演出家の指導を受けていた。同会副会長で、メインキャストの勝海舟を演じる舩野信夫さん(67)は「練習していくうちに気持ちが入っていった。上演まで持ってくれたことがう

れしい」と話していた。

また、音楽で舞台を盛り上げる木古内中吹奏楽部の生徒27人も練習に合流。ダイナミックな演奏を披露することも、セリフと音楽のタイミンクなどを確認していた。

同会の久保義則会長(80)は「出演者、スタッフとも苦労が多かったが、しっかりと本番を迎えることができる」と語った。

サミットは24、25の両日開かれる。24日は午後1時からサラキ岬で終焉140年式典、同3時からは合田さんらの講演を行う。また、同4時15分からは咸臨丸など歴史文化を核としたまちづくりをテーマに同艦の関係都市から代表を招きサミットを開く。

朗読劇はサミット2日目の25日午後1時から上演される。入場無料。

各福祉施設の作品などが並んだ販売会場

